

地震防災対策 5

プレホスピタルケアと医療活動

発表者用原稿

地震防災対策4「プレホスピタルケアと医療活動」

事故や災害などにより多数傷病者の発生する現場では、一刻でも早く治療の優先順位を決め、必要な応急処置を行い、医療施設に搬送することが、傷病者の救命につながります。特に、円滑な医療を行うには「3T」が不可欠といわれています。

「3T」とは、

Triage = トリアージ、Treatment = 治療、Transport = 搬送、の頭文字を取ったもので、「災害時の3T」とも呼ばれている。

トリアージは、現場で行われる3Tの最初の作業、災害医療のスタートです。的確なトリアージを行うことが、医療効果を上げる最もよい方法ですが、トリアージに伴う搬送や治療の条件が整っていない、その状況が理解できていないと、効率のよいトリアージを行う事はできません。「一人でも多くの人を助ける、救命第一」を目標に効果的な医療を行うこと、災害時の3Tの原則を守り実践することは重要なことです。

事故や災害などにより多数傷病者の発生する現場（以下、現場）では、一刻でも早く治療の優先順位を決め、必要な応急処置を行い、医療施設に搬送することが、傷病者の救命につながります。特に、円滑な医療を行うには「3T」が不可欠といわれています。

「3T」とは、Triage = トリアージ、Treatment = 治療、Transport = 搬送、の頭文字を取ったもので、「災害時の3T」とも呼ばれています。

そのなかでトリアージは、現場で行われる3Tの最初の作業、災害医療のスタートです。的確なトリアージを行うことが、医療効果を上げる最もよい方法ですが、トリアージに伴う搬送や治療の条件が整っていない、またはその状況が理解できていないと、効率のよいトリアージを行う事はできません。「一人でも多くの人を助ける、救命第一」を目標に効果的な医療を行うこと、災害時の3Tの原則を守り実践することは、重要なことです。

1 プレホスピタルケアとは

1-① プレホスピタルケア

プレホスピタルとは、病院前、つまり事故・災害が発生した現場から医療施設までを指す。

プレホスピタルケアとは、傷病者が救出され、応急救護処置を受け、適切な医療施設に搬送される“現場から医療施設までの医療救護”を指す。この一連の流れが円滑に行われるための救急医療システムがプレホスピタルケアであり、事故や災害時の救急医療は現場から始まるといえます。

また、事故や災害は一般市民の生活の場で発生することから、プレホスピタルケア（病院前救護）には、一般市民（バイスタンダー）による地域医療、応急救命処置から、専門職である医療者の救命処置まで含まれることになります。

1 プレホスピタルケアとは

1-① プレホスピタルケア

プレホスピタルとは、病院前、つまり事故・災害が発生した現場から医療施設までを指し、プレホスピタルケアとは、傷病者が救出され、応急救護処置を受け、適切な医療施設に搬送される“現場から医療施設までの医療救護”を指します。この一連の流れが円滑に行われるための救急医療システムがプレホスピタルケアであり、事故や災害時の救急医療は現場から始まるといえます。

また、事故や災害は一般市民の生活の場で発生することから、プレホスピタルケア（病院前救護）には、一般市民（バイスタンダー）による地域医療、応急救命処置から、専門職である医療者の救命処置まで含まれることになります。

1-② プレホスピタルケアの重要性

現場へ最初に到着する医療者は概ね救急隊であり、プレホスピタルケアの中心となるのは救急隊員です。しかし、事故や災害は地域で発生することから、その現場に居合わせた人々が一番の情報提供者・対応者となります。

一般市民（バイスタンダー）の救援活動は、救急隊員・救急救命士や医師・看護職の医療者に引き継がれ様々な傷病者に対して、緊急度・重症度に合わせたトリアージと必要な応急処置が施され、適切な医療機関に迅速に搬送されます。医療行為の空白をなくし、いかに早く医療施設に搬送するか、「救急の連鎖」が傷病者の予後を左右することに繋がっていく。

医療者は、以下の順序で医療活動を行います。

1-② プレホスピタルケアの重要性

現場へ最初に到着する医療者は概ね救急隊であり、プレホスピタルケアの中心となるのは救急隊員です。しかし、事故や災害は地域で発生することから、その現場に居合わせた人々が一番の情報提供者・対応者となります。

前述したように、一般市民（バイスタンダー）の救援活動は、救急隊員・救急救命士や医師・看護職の医療者に引き継がれます。そして、様々な傷病者に対して、緊急度・重症度に合わせたトリアージと必要な応急処置が施され、適切な医療機関に迅速に搬送されます。医療行為の空白をなくし、いかに早く医療施設に搬送するか、「救急の連鎖」が傷病者の予後を左右することに繋がっていきます。

医療者は、以下の順序で医療活動を行います。

・安全の確保

傷病者の救助および傷病者を危険地域から安全な場所へ移動させ、二次災害の発生を防ぐことが重要です。また、救援者自身が災害に巻き込まれないようにしなくてはなりません。

・傷病者のトリアージ（より正確なトリアージ）

傷病者の治療・搬送の優先度・緊急度の判断（トリアージ）を行います。マンパワーや安全が確保された医療施設とは違い、人的・物的資源の限られた現場では、また救急搬送車内でも、実施できる医療は限られています。この状況を理解し、トリアージを行わなければなりません。

・的確な救命救急処置

まず最低限の応急処置として、止血・気道の確保を行い、次に、苦痛の軽減のための処置を行います。

・安全の確保

傷病者の救助および傷病者を危険地域から安全な場所へ移動させ、二次災害の発生を防ぐことが重要です。

また、救援者自身が災害に巻き込まれないようにしなくてはなりません。

・傷病者のトリアージ（より正確なトリアージ）

傷病者の治療・搬送の優先度・緊急度の判断（トリアージ）を行います。

マンパワーや安全が確保された医療施設とは違い、人的・物的資源の限られた現場では、また救急搬送車内でも、実施できる医療は限られています。

この状況を理解し、トリアージを行わなければなりません。

・的確な救命救急処置

まず最低限の応急処置として、止血・気道の確保を行い、次に、苦痛の軽減のための処置を行います。

・正確な情報伝達

正しい情報伝達は災害医療の要ともいえます。現場からの情報は、受け手である医療施設には非常に重要なものです。どのような事故・災害であるのか、傷病者の数、どのような状況なのか、それに伴う治療の提供などの情報から、医療施設では治療計画の予想を立て、準備をすることが可能となります。

・適切な搬送病院の選定

搬送順位の決定後、傷病者数と周辺医療機関の受け入れ能力、医療機関までの搬送時間などを考慮し、適切な搬送病院を決定します。

・後方医療施設への速やかな搬送

近隣の医療機関に搬送できなかった傷病者を後方医療施設に速やかに搬送できるように、搬送車両の確保を行います。

・ 正確な情報伝達

正しい情報伝達は災害医療の要ともいえます。現場からの情報は、受け手である医療施設には非常に重要なものです。

どのような事故・災害であるのか、傷病者の数、どのような状況なのか、それに伴う治療の提供などの情報から、医療施設では治療計画の予想を立て、準備をすることが可能となります。

・ 適切な搬送病院の選定

搬送順位の決定後、傷病者数と周辺医療機関の受け入れ能力、医療機関までの搬送時間などを考慮し、適切な搬送病院を決定します。

・ 後方医療施設への速やかな搬送

近隣の医療機関に搬送できなかった傷病者を後方医療施設に速やかに搬送できるように、搬送車両の確保を行います。

◆ 事故・災害医療の最終目標

多数傷病者に対して統一された医療を提供すること、さらに地域・関連機関・職種間が連携することが、一人でも多くの人を助けることにつながります。事故・災害医療の最終目標は、次項の3点です。

- 1.防げる死（PREVENTABLE DEATH）をゼロにする
- 2.傷病者を社会復帰につなげる
- 3.合併症を最小限にとどめる

◆事故・災害医療の最終目標

多数傷病者に対して統一された医療を提供すること、さらに地域・関連機関・職種間が連携することが、一人でも多くの人を助けることにつながります。事故・災害医療の最終目標は、次項の3点です。

- 1.防げる死（preventable death）をゼロにする
- 2.傷病者を社会復帰につなげる
- 3.合併症を最小限にとどめる